

[研究発表]

## 瀬戸内 広島レモンの歩みと 広島レモン利用促進プロジェクトチーム（PT）の取組

広島レモン利用促進プロジェクトチーム 中 元 勝 彦

明治 31 年に広島県にレモンが導入された後の県内生産量は、レモン輸入自由化や 3 度にわたる大寒波後の一時期を除いて、年中温暖な瀬戸内式気候とレモンを愛する研究熱心な生産農家の努力により年々増加し、平成 24 年の生産量は 4,946 トンで日本一の座を維持している。なお、最新の調査結果から「おいしい！広島県」の地域資産としての知名度は、首都圏では 20%と低く広島カキの 80%に及ばないが、県内での認知度は約 90%で高い。

### 1 研究の背景

「生産量が日本一であること」は商品ブランドとしての大きな強みになっている。

しかし、広島レモンには弱みがある。広島レモンは 6～9 月は出荷量が少なく、販売単価が通常の 2～5 倍に高騰している。そのため、一般の消費者や外食加工業者には購入しにくい価格になっており、消費や販路を拡大する上で大きな障壁になっている。

また、平成 22 年に実施した国産レモンに対するアンケート調査の結果、生産者からは病虫害対策、新品種の育成、周年供給および価格が下がったので、もう少し高く売ってほしいとの要望が寄せられた。一方、消費者からは、国産レモンを今後も使いたいので、安全・安心を維持しながら、もう少し安く販売してほしい、健康により成分を解明して欲しいとの意見が多くあった。また、外食加工業者は、低価格化と周年安定供給を望むという意見であった。以上の要望に対応し、国産レモンの消費・販路の拡大には、周年供給、生産の低コスト化、そして新しい魅力づくりが重要と考えた。

### 2 広島レモン利用促進プロジェクトチームの取組

そこで、私たちの研究チームでは、広島レモンの強みを伸ばして弱みを改善するために、四定条件、すなわち一定品質のレモンを一定の時期に、一定価格で一定量供給する技術開発に 3 年間取り組んできた。その柱は、周年供給、栽培の低コスト省力化、新しい魅力づくりである。取組内容および研究成果はこのあと各担当者から詳しくご報告する。

また、実用化段階の成果は、今後県内生産者、業者、行政の皆様と連携を密にして、技術移転と技術支援サービスを行い、広島レモンの消費拡大に取り組んでいくので、関係各位のご支援ご協力をお願いする。

